職種紹介

患者さんに寄り添う様々な仕事

ACC では、院内外の専門機関と連携し、医師や HIV コーディネーターナース、薬剤師、心理療法士、MSW、歯科衛生士など、多職種によるチーム医療で包括的な診療・ケアの提供を行っています。今回は、HIV コーディネーターナース・薬剤師・心理療法士についてご紹介します。

HIVコーディネーターナース

HIV コーディネーターナースは、薬害エイズ被害の教訓から、「話し合いながら進める医療」「患者さんに対する開かれた医療の提供」を目的に病院内や地域のあらゆる職種と連携し、**患者さん自身の意思決定の過程を支えながら患者参加型医療の実現をサポートする医療スタッフ**として、薬害被害者の要望により創設されました。以後、感染経路を問わず通院中の患者さんに対し、現在９名のスタッフ体制で患者さんの様々なライフイベントや個別の事情に合わせて、医療の継続、生活の安定につながるようにサポートしています。

薬剤師

ACC では専門の薬剤師が、薬の飲み方や副作用の対処法、お薬の飲み合わせなどの注意点などについて患者さんに説明しています。抗 HIV 薬の種類によって、1 日に服用する回数、錠剤の大きさ、副作用、他の薬との飲み合わせ、食後の内服が必要かどうか、腎臓の機能が低下した人でも使用できるかどうかなどの特徴が異なります。患者さんと相談しながら最適な治療薬を選択しています。

抗 HIV 薬の飲み忘れは、治療効果が低下するだけでなく、薬が効かない耐性ウイルスの出現にもつながります（**図1**）。忘れずに内服ができるよう、薬を服用するタイミングや薬の保管方法、飲み忘れ防止対策について患者さんとお話します。また、「他の人に薬を見られたくない」「仕事がシフト制で不規則な生活のため飲み忘れが心配」など様々な不安を抱える患者さんもいます。薬剤師は、それぞれの患者さんのライフスタイルに合わせた薬の飲み方をサポートしています。

抗 HIV 薬は、他の薬との飲み合わせで薬の作用が増強されると、副作用が起こり、薬の作用が減弱すると薬が効かないウイルス（薬剤耐性ウイルス）が出てくる危険性があります（**図2**）。病院で処方される薬だけでなく、市販の薬やサプリメントでも飲み合わせが問題になることもあるため注意が必要です。薬の飲み合わせが気になる方は薬剤師へご相談ください。

図 1：服薬アドヒアランスと薬剤耐性

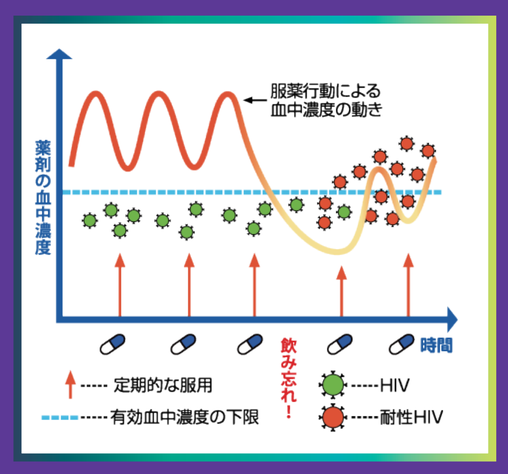
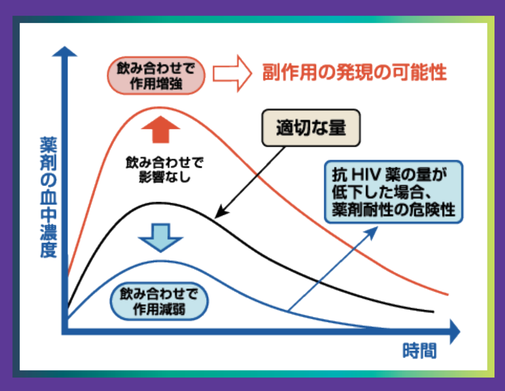


図 2:薬の飲み合わせ（薬物相互作用）



現場の薬剤師の声

通院を始めた当初は不安そうだった患者さんが、何度かお話をして治療を開始し、その後に安心して通院・治療を継続できている様子を見られると嬉しいですね！

医師や看護師など他の職種から、薬についての色々な相談を受けることがあります。抗 HIV 薬だけでなく、他の領域の薬についての知識が活かせる場面も多いです。薬の専門家として、多職種のチームで患者さんに関わり、より良い医療の提供を目指しています！

心理療法士

HIV に感染することは、からだだけではなく、こころにも影響を与えます。不安になったり、泣きたくなったり、孤独を感じたり、気分が不安定になることがあります。また、治療薬の進歩によって療養生活が長期になったからこそ、病気を抱えて生きていくことに伴う人生設計や対人関係の悩みを抱くこともあります。このような悩みや気持ちの揺れが生じるのは、いわゆる精神疾患によるものとは限らず、自然なことではありますが、強すぎるとこころが疲弊してきます。

ACC では、そのような**療養生活にともなうこころの健康（メンタルヘルス）に対して、心理療法士がカウンセリングや心理検査を用いて臨床心理学的な視点から、患者さんとともに考え、支援を行っています。**また、物忘れなどの認知機能に関するご相談も承っています。こころのことで相談したいこと、気になることがある方は、主治医やコーディネーターナースに相談予約希望をお伝えください。

Q　HIV 感染に直接関係ないことでも相談していいですか？

相談内容は HIV 感染に直接関係ないことでもかまいません。お気軽にご相談ください。

Q　心理療法士が患者さんの長期療養にかかわるうえで大切なことは何ですか？

患者さんが自分らしさを自由に表現できたり、埋もれていた自分らしさに気づけるように、一緒に考える姿勢が大切だと考えています。